

カルメル

霊性センターニュース



アンジェリコ画 「キリスト降誕」

2020年12月

370号

【教会からの巻頭の言葉】

「キリストからの再出発」とは、わたしたちを奮い立たせてはじめてキリストに従いたいという気持ちにさせた、あのきらめくような最初の愛をもう一度見つけ出す、という意味です。先に愛したのは主です。主に従うことは、単に神の愛に愛をもってこたえることにすぎないのです。もし「わたしたちが愛する」なら、それは「神がまずわたしたちを愛してくださったからです」(1ヨハネ4・10,19)。

それは「(キリストは) わたしを愛し、わたしのために身をささげられた」(ガラテア2・20) と使徒パウロをして言わしめたように、心底から自覚して、わたし個人に向けられた主の愛を認めることなのです。

主に限りなく愛されているという自覚だけが、あらゆる個人的な困難や制度面での難しさを乗り越えていくことを助けてくれます。もしわたしたちが無条件に愛されていると感じることができないならば、わたしたちは創造的になることはできず、制度を刷新させることや新たに使徒的な道を切り開いていくこともできません。

わたしたちを強め、勇気を授けるこの愛こそが、わたしたちの心を燃え立たせ、何事にもチャレンジできるようにしてくれるのです。

(『キリストからの再出発』 22)



目次

| | |
|--------------------|----|
| 教会からの巻頭の言葉 | 1 |
| 目次 | 2 |
| 心の泉 | 3 |
| キリスト教放送局 FEBC のご案内 | 24 |
| カルメル会の企画案内 | 25 |
| 東京 | 26 |
| 京都 | 28 |
| 京都司教区オンライン聖書講座 | 30 |
| 諸所の企画案内 | 31 |
| 来年度の郵送お申込みのご案内 | 38 |
| あとがき | 39 |

心の泉



聖ヨゼフと幼きイエズス像(宇治カルメル会修道院)



第三卷

第三十三章 心の変わりやすいこと、そして最高の目的を神に置くこと

1 主

《子よ、今の感情をあてにするな。それはすぐ移り変わるものだからである。あなたが生きている間は、いやでも感情が変化する。今、喜んでいてもすぐ悲嘆にくれ、今は静かであってもすぐ不安になり、今は熱心でもすぐ冷淡になり、今は勤勉でもすぐ怠惰になり、今はまじめでも、すぐ軽薄になる。しかし、心の照らされた知恵ある人は、そのような移り変わりのなかにあって堅固に立ち、心に感じていることをあらわさず、動揺の風に気をとめず、ただ自分の心が、必要な望ましいものに向いているかどうかだけ気をとめている。こうして彼は、さまざまな出来事のなかで、単純な正しい意向の目をつねに私に向け、いつも変わることはない心をもって踏みとどまる。》

2 澄みきった目

意向が清ければ清いほど、この世の嵐のなかを忍耐強く突き進むことができる。しかし、つねに清くあるべきこの意向も、とかく、くもりがちである。快樂の何かが目に入ると、すぐそれに目を向ける。なぜなら、自愛心を脱ぎ捨てた人はめったにないからである。その昔、ベタニアのマルタとマリアのところに来たユダヤ人たちは、「イエスに会うためだけではなく、ラザロを見るためでもあった」(ヨハネ12・9)。したがって、意向はつねに清らかに保ち、まっすぐな単純なものとし、あらゆるさまたげを取り除いて、私に向けられなければならない。》

第三十四章 主を愛する心は、すべてにおいて、すべてにまさって主を味わう

1 子

《「ああ私の神、私のすべてよ!」、私はこれ以上に何を望み、これ以上の幸福をどこに見いだそう? 味わいある優しいみことばよ、この世もこの世のものも愛さず(一ヨハネ2・15 参照)、ただみことばを愛する人にとっては! 「私の神、私のすべてよ!」、わかる者には、そう言うだけで十分です。こうくり返すのは、愛する心にとって、喜ばしいことです。主よ、あなたがそばにおいでになると、すべてが歓喜に満ちあふれ、おいでにならないと、すべてが苦々しく思われます。あなたは心を騒がせない者に、大きな平和と歓喜をもたらしてください。創造したすべてのものを感嘆させ、すべてのことにおいてあなたを賛美させるのは、あなたご自身です。あなたがおいでにならないければ、どのような喜びも長続きしません。私たちが何事かを楽しみ、好むためには、天の恵みで満たされ、あなたの知恵で調味されていなければなりません。》

12月、師走とも呼ばれるこの時期は、教会暦ではすでに新しい年がはじまり、
救い主を待ち望む待降節に入ります!

お告げからご降誕までの数か月聖マリアの態度のうちに、
神が魂の底知れない深みにおいて内的生活をするよう
選ばれた人々が生きるべき姿を見ます。
どれほど深い平和と、深い潜心のうちに
全てのことをしておられたことでしょう。
もっとも平凡な事柄も
聖マリアにとって神とともにある神的なものでした。

～三位一体の聖エリザベット～*1



幼きイエスさまが欲しがるプレゼント クリスマス前夜の幼きイエスと聖ヒエロニモの会話：*2

幼子：「ヒエロニモ、わたしの誕生日に何を祝ってくれる？」

ヒエロニモ：「訳し終えたあなたのみ言葉を！」

幼子：「ちやがうよ、(聖書の翻訳のお祝いではなく)欲しいのはそれではないよ」…

ヒエロニモ：「では、聖なる幼子よ、あなたが望まれもしないないことのために、わたしは
40年という長い年月を費やしたとのですか。…あなたが望まれるのは貧しい人々への施
し? 断食? 隠遁者になること?」と問います。

幼子：「違う、それではない…」

ヒエロニモ：「わたしは持っているものすべて、わたしのすべてをあなたに差し上げます。」

幼子：「それもいいけど…」

ヒエロニモ：「聖なる幼子よ、わたしはこれ以上にもあなたに差し上げるものはありません。
いったいお誕生日に一番あなたを喜ばせるものって何ですか。」

幼子：「…約束してくれるかい、ヒエロニモ」

ヒエロニモ：「主よ、もちろん…」

幼子：「では…お前の罪をおくれ…すべての罪を…」

ヒエロニモは困惑して尋ねました。「主よ、わたしの罪を一体どうなさるの
ですか。」

すると幼子は「お前の罪をおくれ、罪を全部赦したいんだ。」

この救い主イエスの答えに、ヒエロニモは愛すべきイエスへの愛と喜びの
うちに涙しました。



日々の忙しい生活のなかでも、「真のいのち、救い主イエスの誕生」を聖マリアとともに待ち望
み、希望にあふれた待降節を過ごされますように。

よいご降誕の祝日をお迎えください!

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートル・ダム・ド・ヴィ

*1 「いのちの泉のほとりにて」 ドン・ボスコ社 伊従信子

*2 テレーズの姉レオニーが毎年待降節に読んでいた幼子と聖ヒエロニモとの会話 (伊従編訳)



創造主への賛美 (37)

くのり 彰
九里 彰

「真の謙遜」を強調したアヴィラの聖テレジアの言葉は、すでにいろいろなところで紹介してきた。よく知られている箇所では、こう言っている。

私はただ三つのこと、それも会憲それ自身の中からとった三つのことについてだけ、いくぶん長く説明したいと思います。主が私どもにあれば、強くお勧めになった内的外的平和を保つために、この三つを守るとどれほど助けになるかをわかっておくのは、この上もなく大切なことですから。その一つは、私どもの相互の愛、もう一つはすべての被造物からの離脱、もう一つは真の謙遜、これは最後にあげましたが、一番主な、そして他のすべてを含む徳です。（『完徳の道』4, 4）

「真の謙遜」は、今回の文脈で言えば、「自己賛美」からまったく離れた状態として理解できる。この世では絶えず自分を人より優れた者、偉い者としようとしており、この価値観のもとで社会は成り立ち、展開されている。あらゆる次元で、日常の衣食住に関わる些細な次元から経済や政治、芸術や学問の次元に至るまで、人は自分を誇ろうとしている。教会の中、修道会の中も例外ではない。宗教の世界にこの世が入ってしまい、聖職者や修道者が特権階級になってしまった教会や修道会の歴史を顧みれば、明らかである。

人は、この世的な「自己賛美」の影響を受けながら成長する。両親の考えや家庭環境によるが、小さい時から「自分を誇ろうとする」傾向が見られることは、だれもが承知していることだろう。最新のおもちゃを買ってもらい、みせびらかしたり、どこか行楽地に行ってきたと自慢する友だち——「ドラえもん」では「スネ夫」か——を、口惜しさと羨望の思いでながめたことは、だれにでもあるのではないだろうか。

「自己賛美」は、集団生活（まず幼稚園、次に小学校）に入ることによって、屈折したものとなる。なぜなら、みなが一番にはなれないからである。あらゆることで、みなが比較され、評価され、優劣を意識し始める。学校教育は、これを助長する。テストを課し、100人いれば、一番から百番まで順位がつく。一番の者は、「自己賛美」に酔いしれるが、最下位の者は、「自己賛美」ではなく、「自己嫌悪」に陥る。最下位でなくとも、成績の悪い者は、自分の存在を価値の低いものとして受け止めていくと思われる。

そこに自己防衛機制が働き始める。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (152)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

アンダルシアの妖精たち

ブロカルド修士と十字架のヨハネ修士が旅をしていました。アンダルシアの村の近くで、「まったく厚顔無恥の」女性が現れました。彼女はブロカルド修士には目もくれず、ヨハネ修士の方に向かい、「彼と一夜を共にしたいと、彼を宿に誘いました」。連れのブロカルド修士は、こう語っています。「くだんの聖なる神父は、おだやかな態度で、彼女を自分から振りほどき、彼女よりもむしろ地獄の悪魔を仲間として受け入れるだろうと、他のことともに言いました」。

他の場合、ヨハネ修士があまりよく考えずに信徒の家に宿泊した時、一人の女性が彼に言い寄ってきましたが、ヨハネ修士は拒否しました。彼女は、自分の部屋に戻り、そこから彼が彼女を強姦しようとしたと叫ぶと、彼を脅しました。ヨハネ修士は、もう一度拒否しました。彼女はベッドに入ろうとしましたが、彼は寝床から飛び出し、服を身にまとったかのように、部屋の片隅にうずくまり、マントで身を覆い、その妖精が疲れ果て、立ち去るまで、そこにとどまりました。

栄光と喜び

証人たちは、ヨハネ修士がどのように「大いなる信心をもってミサを捧げていた」かを強調しています。さらに彼が、「暇な時はいつでも、教会の中にいて、ご聖体の前に跪き」、「これこそ栄光と喜びである」と言っていたと指摘しています。

その栄光と喜びを夢見ながら、1578年の8月14日の聖母被昇天の晩課の時、ヨハネ修士はトレドにいました。その日に起きたことを、投獄されたヨハネ修士はマルティン修士に語り、彼はそれを細心の注意を払いつつ、私たちに伝えています。

(続く)

(P. 九里訳)

待降節 第2主日 (B)

(マルコ 1 : 1 - 8)

マルコによる福音は、洗礼者ヨハネについての記述から始まります。イザヤ40章の美しい引用は、荒れ野のヨハネのことです。ヨハネは今日の福音の中心人物で、主への道を準備する人として記されています。ヨハネはヨルダン川に説教者として、洗礼を授ける者として現れます。神の言葉を宣言する預言者として、罪の赦しに導く悔い改めのメッセージを与えます。

ヨハネは、言葉だけではなく、全生涯をもってそのメッセージを説いています。彼はよい知らせの先触れであり、この世に到来するキリストの到着を告げ知らせ、人々に自分の罪深さを知らせました。ヨハネのメッセージの核心は、悔い改めでした。悔い改めということ私たちがどのように理解しているのでしょうか？ 過去の罪を悔やんで償いをするのでしょうか？ 日曜日にミサに与ることでしょうか？ 悔い改めは、これだけではなく自分の生活の根本的な変革への呼びかけです。真の回心です。全生活の方向転換です。洗礼者ヨハネは非常に簡素で、謙虚で、無私の人でした。福音を通して、私たちは「ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野密を食べていた。彼が『わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない』と宣べ伝えた」ことを知ります。ヨハネは謙遜して自分を低くしましたが、神の御目には偉大でありました。

洗礼者聖ヨハネは、人々にとって灯台の明かりでした。人々に洗礼を授けただけでなく、人々がイエスを見出し、その道に従う助けとなりました。今日私たちは洗礼者聖ヨハネの生活からいろいろなことを学びます。自分の生活スタイルにおいてもっと謙遜で簡素でなければならぬこと、私たちは悔い改めを必要とする罪びとであるといつでも気づいていること、来たるクリスマスの間そして毎日の生活の中でイエス様と出会うため十分に準備すること、隣人の中にイエス様を見ること、日常の出来事や生活の体験の中でイエス様を感じるなどです。洗礼者聖ヨハネはさらに、私たちもまたイエス様のよい知らせを宣べ伝え、人々にイエス様を知らせ、愛させ、仕えさせる責任があることに気づかせます。

(Sr. Paulina)

待降節 第3主日

(ヨハネ1：6－8， 19－28)

「いったい、あなたは誰なのですか？」という質問に、ヨハネは答えました。「わたしは荒野で叫ぶ声である。『主の道をまっすぐにせよ』と」。

声は音声です。メッセージを届けた後、声は消えて無くなります。ヨハネは、自分が過ぎ去っていく存在であることを自覚しています。しかし、声をとおして届けたメッセージは人の心に残り続けるのです。そのメッセージこそ、「みことば」であるイエス・キリストなのです。

「その人はわたしの後から来られる方で、わたしはその履物のひもを解く資格もない」とヨハネは言います。ヨハネは喜んでイエスに道を譲ります。自分を無くし、イエスを目立たせるのです。

ヨハネはまた花婿の介添え人です。「花嫁を迎えるのは花婿だ。花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びで満たされている。あの方は栄え、わたしは衰えねばならない」(ヨハ3・29－30)。彼は花嫁に花婿キリストを出会わせることを喜びとしています。

今日は待降節第3主日。「もうすぐ、花婿をみんなに出会わせることができる」。そんなヨハネの期待を共有しながら、私たちも喜びのうちに祈ります。

今年のクリスマスはコロナ禍ですが、派手な催しができない分、より多くの人にイエスとの真実の出会いが待っているかもしれません。このような時だからこそキリストの助けが必要であり、イエスはコロナ禍の闇の中に喜んでお生まれくださいます。

すでにイエスとの絆を生きている私たちも、ヨハネと共に介添え人となって、多くの花嫁が花婿キリストと結ばれますように祈りながら、この待望の時を過ごしていきましょう。

(今泉健 神父)

待降節 第4主日 (B)

(ルカ 1 : 26 - 38)

本B年に読まれるマルコによる福音書にはイエスのご降誕の場面が描かれていません。そこで今日は、ルカによる福音書において乙女マリアが神のお告げを受ける有名な美しい場面を読みます。

神から遣わされた大天使ガブリエルは、「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい」と告げました。天使の挨拶を受けたマリアが戸惑ったとルカは記していますが、たくさんの疑問が彼女の頭をよぎったに違いありません。これはどういう意味？ どうやって処女が子を宿すことができるのだろうか？ ヨゼフに何て言えば良いだろうか？ 信じてもらえるだろうか？ そんな恐ろしい状況でも、マリアは神に信頼することができました。これは、マリアが神と深い親密な関係を持っていた証です。まだうら若かったにもかかわらず、神のご計画を受け入れ、自由な心で神に応えたのです。「わたしは主のはしため(しもべ)です。お言葉どおり、この身に成りますように」と。この「はしため・しもべ」という肩書は、イザヤから由来しますが、私たちの使命が特権ではなく他者への「奉仕」であることを示しています。イエスご自身も、「仕えられるためではなく仕えるために来た！」と言い、使命=奉仕であることを母マリアから学ばれていたのです！

私たちも、人生において困難や痛みを体験する時、無数の問いが浮かんでくるかもしれません。怒り、心配、恐れが湧き上がってくるのでしょうか？ その場から逃げたり神から離れたりしてしまうのでしょうか？ 信じがたい状況に陥っても神を信じ続け、試練や誘惑の中で神のそばに近寄ることが出来ますか？ 今日の福音朗読を通して自分を省みてみましょう。そして母マリアの生涯について思い巡らしましょう。マリアは私たちの偉大な模範です。私たちもマリアのように神と個人的で親密な関係を築く必要がありますが、神への信頼を深め、神のみ旨に従うことができますように。クリスマス当日、イエスを喜んでお迎えできるように心と思いを整えて準備しましょう。

皆様にメリークリスマス、そして2021年が喜びに満ちた新年となりますよう。

(Sr. Paulina)

聖 家 族

(ルカ 2 : 22 - 40)

父、母、子の家族。その中でも聖なる家族。それがイエス、マリア、ヨセフの聖家族。さて今日はルカによる福音書の箇所が語られました。イエスの誕生の後、マタイによる福音書では、羊飼いや東方の三人の占星術の学者たちの来訪を受けた後、聖家族のエジプト避難が語られますが、ルカによる福音書ではそのことは特に触れられていません。

ルカによる福音書では、今日の箇所の前に「生後 8 日目の割礼」の話が語られており、イエスはユダヤ民族の一員であり、律法の定めに従い、父母は子に割礼を施したこと、イエスが割礼をお受けになられたことがわかりますね。

今日の箇所では、イエスが神殿で捧げられ、またそのことを終えてナザレに帰られたことが語られます。先に律法の定めに従って、イエスが割礼を受けたと話しましたが、神殿で捧げられたことも、律法の規定によるものですから、この世界をお創りになった父なる神の子、目に見えない神の御独り子が、神の掟に従っておられるわけです。

イエスが神殿に奉献された際、とても不思議な出来事がありました。シメオンという老人との出会い、またアンナという女預言者との出会いです。シメオンは、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なないというお告げを聖霊から受けており、聖霊に導かれ神殿でイエスと出会うことになり、有名な賛歌を述べるわけですが、それだけではなく母マリアに、イエスがイスラエルの多くの人を倒したり、立ち上がらせたりするために定められていること、さらにはマリア自身も剣で心を差し貫かれることが語られます。

聖家族、イエス、マリア、ヨセフ。人となられた神の子イエス、そのイエスを産んだ母マリア、マリアの夫でありイエスの養父、聖家族の長ヨセフ。幼な子イエスについて不思議な出来事を通して、どの様なお方であるかが神から人に、シメオンに、アンナに、マリアに、ヨセフに示され、それぞれが心に留めて人生を歩んで行くこととなります。

今日、この出来事を語られた私たちも、イエスがどなたであるのかを各人がそれぞれ深く心に留めて、今置かれている場所、環境、立場の中で神の子として相応しく歩んでゆくことができます様に。母マリアのように、父ヨセフのように、シメオンのように、アンナののように。

(Fr. 古川利雅)

いのちの言葉 12月

主はわたしの光、わたしの救い
わたしは誰を恐れよう。

(詩編 27 章 1 節)

ブラジルのとある一人の若い母親、アルバの体験です。

「私たちの娘マリアナは生後まもなく脳の機能障害があると診断されました。話すことも歩くこともできないだろうとのことでした。神様が私たちに、マリアナをありのまま愛するよう求めておられるのを感じ、御父のみ腕にすべてを委ねました。

マリアナは私たちと一緒に 4 年間過ごし、愛のメッセージをみんなに遺して逝きました。パパ、ママという言葉は決して聞けませんでした。彼女は輝く光をたたえた瞳を向けて、沈黙のうちにも語りかけてくれました。

マリアナに歩き方を教えることはありませんでしたが、私たちの方が、『愛するために己を捨てて生きる“歩き方”』をマリアナから教わりました。マリアナの存在は私たち家族への、『愛とは言葉ではない』という、神様の愛の贈り物でした。」

主の光は私たち一人ひとりにも必要です。思い通りにならない人生を前に、突破口を見出したい、人生をやり直したいと思うとき、救いを求めて、踏み出すべき一步を示してくれる光が必要です。

「主はわたしの光、わたしの救い
わたしは誰を恐れよう」

詩編に収められた古来の祈りにもあるように、苦しみや恐れ、疑い、孤独、逆境といった暗闇に、夢を打ち砕かれるといった状況は、いつの時代、地上のどこにあっても、人間が繰り返し体験してきたものです。

この祈りを捧げた人は、おそらく不当な責めを負い、皆から見捨てられ、裁きの日を待っていました。不安に満ちた運命に怯えながらも、神に自らを委ねています。神が試練にあるご自分の民を見捨てず、解放に導くことを、彼は知っています。それゆえに彼は、神の内に光を見出し、安全で頑丈な逃れ場を与えられるのです。

彼は、まさに自分の脆さ^{もろ}を自覚する中で、神への信頼に目覚めます。自らの人生における神の働きを認め、神の愛が導く、予測不可能な数々の道を辿って、最後には勝利に至ることを待ち望んでいます。

「主はわたしの光、わたしの救い
わたしは誰を恐れよう」

神様は、御父としてご自分の子らの幸せを望んでおられます。そうした神の愛に対する信頼の灯し火をもっと燃え立たせようではありませんか。

神様は私たちの思い煩いを担って下さろうとしています¹。それは、私たちが自分だけに目を向けてしまわないで、人生で見出した光や希望を、自由な心で人と分かち合えるように、そうして下さいなのです。

キアラ・ルービックも書いていますが、み言葉は闇から光へ、「私」から「私たち」に向かって歩む道へと導いてくれるものです。

「誰かと出会う時には、神がその人を通して私に何か言おうとしておられることを心にとめ、何かの仕事をする時にも、神の愛を信じながら続けます。

苦しみが訪れる時には、神が私を愛しておられると信じ、喜びが訪れる時には、それも神の愛として受け止めることができます。

神はいつも私と共にいて下さいます。私のことは何もかもご存知で、私の考えや喜び、望みもすべて知っておられます。生活の中で出会うどんな心配事や試練も、神は私と共に担って下さいます。

この確信を持つために、私たちはどうすればいいのでしょうか。

私たちの間に、イエスの存在を保つことです。イエスは、二人三人がご自分の名によって集うところに共にいると約束されました²。ですから、いのちの言葉を共に生きる人たちと集い、福音の教える相互愛を生きながら、互いに経験を分かち合いましょ。私たちは、イエスが共におられる時の実り、喜びや平和、光や勇気を味わうでしょう。

イエスは私たち一人ひとりと共にいて下さいます。日々の生活の中で私たちは、イエスがそばにいて助けて下さるのを感じるでしょう。」³

レティツィア・マグリ

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

1 一ペトロ 5・7 参照

2 マタイ 18・20 参照

3 キアラ・ルービック いのちの言葉 2006年7月

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2020年11月13日

コンゴで初めての総長代理区 総会開催



跣足カルメル修道会コンゴの新しい聖ヨセフ総長代理区顧問会の総会が9月24日～29日まで開催され、サベリオ カニストゥラ総長が総長顧問会のアフリカ代表顧問ダニエル エヒギー神父を伴って臨席され、議長を務められました。

総会では、新総長代理区の生活に関する議題の他に、総長代理とその活動事業を補佐する3名の顧問を選出しました。選挙の結果は次のとおりです。

総長代理区 総長代理：アルバート タンプウオ神父

同 顧問会顧問：ギルバート ムベンガイ カイエンベ 神父

ジェルマン カロンダ カヤ 神父

ジャック ムティマンワ フラハ 神父

私たちが主に信頼して、この新しい長上たちと全ての総長代理区のメンバーとともに賢明に歩んでいけますよう祈ります。
(訳：小宮山延子)

糸巻き棒からペンへ(59)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

テレジアの美学

聖ヨゼフ修道院には、この世をどのように見、表現するかという、テレジアの「美学」が現れます。聖テレジアは、ご託身修道院の出身です。市の郊外に建てられたこの修道院には、すばらしい回廊の周りにおびただしい数の部屋や、多くの信者を収容できる教会があり、中心部分の建物の周りには司祭たちや雇い人たちや鳥や耕作用の動物たちを受け入れるさまざまな建物がありました。堅固な建物の伝統的な修道院は、とこしえに残る諸価値を、この世の人々に思い起こさせるために役立ちました。そうです、それらは町からずっと離れた所にあり、この世の富を捨て、天の富を求めるように招いていました。

聖ヨゼフ修道院は、騒がしい地区のど真ん中にある家として出現しました。小聖堂は、——新しい「ベツレヘムの小さな馬小屋」と彼女も言っていますが——こじまりとした小さな部屋でした。もちろん鐘楼は必要なく、祈りに招くためには、壁につけられた小さな鐘だけで十分でした。テレジアの家は、神が「私たちの間に住まわれ」、「内的にも外的にも私たちを助けるために」絶えず私たちの側におられるというその時代の社会を思い起こさせます。修道女たちが、聖所の中ばかりでなく、「お鍋の間」や毎日の他の活動の中でも神と出会うことを望んでいた彼女は、人々が修道女たちを隣人、近親者のように感ずるよう望みました。それゆえ、修道院の建物そのものが、周りの家々と大きく異なっていないのです。

台所や修室や他の修道院付属の部屋は、質素で実用的なものでした。しっくい壁、粘土タイルの床、飾りのない木の梁、壁にむき出しの十字架、窓の脇に書き物をするための腰掛け、カンテラ、仕事のための道具（糸巻き棒、刺繍用の針など）、身だしなみを整えるための水がめ。共同の場所には、いくつかの絵やご像が置かれましたが、芸術的価値や経済的価値を越え、信心を呼びさますようなものが求められました。

(続く)

(P.九里訳)



2020年 秋号 No.378

《現代に生きる祈りの伝統》**

キリストの御業の「模倣」から「記念」を生きる
レデンプトリスチン修道会 立見悦子

信仰生活(再)入門(11) 聖書に学ぶ祈りの道(3)
—現代のための神のみことば、テレーズとともに①

イエスの聖テレジアと福音宣教の一考察 片山はるひ
道の靈性(3)—道なき道を道として 松田浩一
田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(11)
—主のみ手は洗礼者ヨハネの上に 伊従信子
ケイティ 忘れられない人 森 みさ
カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(11) 九里 彰

靈的研究会講義録(9)—聖書・祈り・愛について 奥村一郎



2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」
—フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に 松田浩一
教皇フランシスコの説く「平和への道」 九里 彰
司牧者のかがみ 教皇フランシスコ 今泉 健
教皇フランシスコならではの視点と光 大瀬高司
—寄留者の尊厳

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

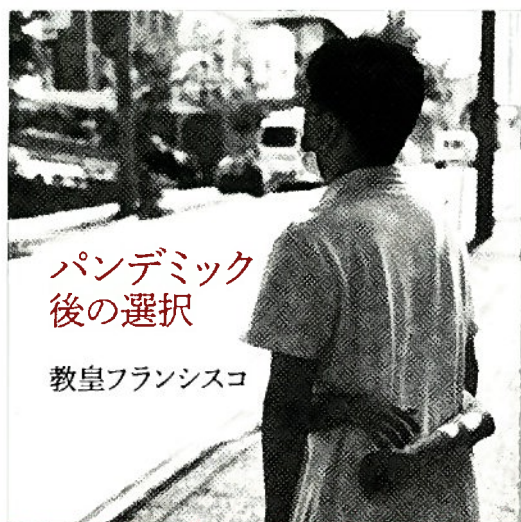
郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

※2021年度より料金が変わります(1冊 580円 年間購読 3,600円)

- お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

書籍案内



パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための
待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

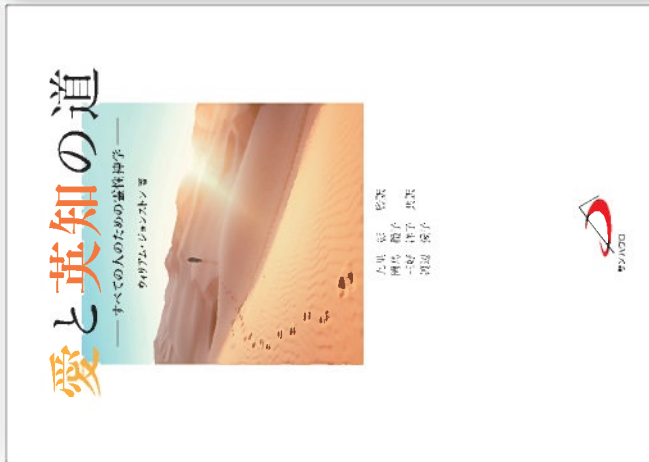
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

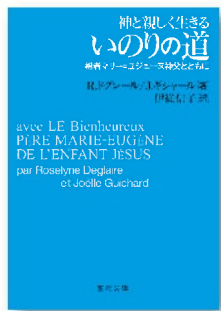
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

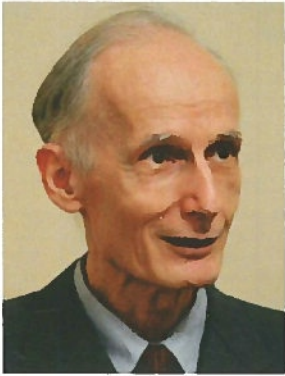
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

| | | ISBN |
|-----|--|--|
| 第1巻 | I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p | 定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税 |
| 第2巻 | II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p | 978-4862852175 4,600 円+税 |
| 第3巻 | III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p | 9784862852205 5,000 円+税 |
| 第4巻 | IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p | 9784862852212 4,000 円+税 |
| 第5巻 | V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p | 9784862852229 4,200 円+税 |

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

キリスト教放送局 **FEBEC** 2020.10~2021.3

2020年秋冬 番組案内

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~

〈全国放送〉

インターネット放送

www.febcjp.com 〈毎日更新〉

日 夜9:30~ **月** 夜9:30~ **火** 夜9:30~ **水** 夜9:47~ **木** 夜9:47~ **金** 夜9:37~ **土** 夜9:30~ **日** 夜10:27~

[月~金] 夜9:30~
FEBEC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

FEBECメインパーソナリティ
吉崎恵子

全地よ主を ほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1] 日キ教会 高知旭教会
- [第2] 福音ルーテル 神水教会
- [第3] 日基教団 久万教会
- [第4] 日基教団 中標津伝道所
- [第5] 各地の教会

夜9:48~

**神父さま、
こんにちは
聞いても
いいですか?** (再)

百瀬文晃
カトリックイエス会司祭
お相手・吉崎恵子

夜9:47~

**嘆きに
神の御言**

金田聖治
日キ教会
上田教会牧師

夜9:47~

Session
- イエスの
Tuneに
合わせて

早矢仕宗伯
[NCAMイエスの風] 牧師
塩谷達也 コスベル
シンガー

[第1] 夜9:37~
再開
**イエスとの
対話の旅**
- 現代霊性神学講座
- 中川博道 カトリック・
カルメル会宇治修道院司祭

[第1] 夜10:25~ **再開**
外からの「声」
- FEBEC HANGOUT!

新 [第2] 夜9:47~
**「時のしるし」を
求めて コロナ時代の
教会の模索**

[第3~4] 夜9:37~
**闇の中は輝く
「獄中書簡」(再)**
小林和夫 ホーリネス
東京聖書学院教会牧師

[第3~4] 夜10:20~
**Meguの
CCM insight!**
Megu
CCM insight!

夜9:30~
**旧約聖書の
ころ-詩編-** (再)

雨宮慧
カトリック・東京教区司祭、
上智大学神学部名誉教授

夜9:53~
**Kishikoの
ひとりじゃ
ないから**

[第1~3] 夜10:04~
**コーヒー
ブレイク・
インタビュ**
インタビュア-
吉崎恵子・長倉崇宣

[第4~5] 夜10:04~
**交わりのことば
聖書の豊かさ**

夜10:31~
黙想のとき (再)
主よ、共に宿りませ
安保ふみ江

夜9:47~

幸福宣言
- 主イエスの
山上の説教に聴く

竹森満佐一
日本基督教団元牧師

夜10:14~

**マイ・
プレイスト**

長倉崇宣

夜10:28~

FEBEC Sprout!
長倉崇宣



夜10:14~

**Echo of
Voices**
長倉崇宣

夜10:28~

御足の跡を
小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所牧師

夜10:28~

**神からの
メッセージ**
グレゴリオ聖歌
橋本周子
聖グレゴリオの家
宗教音楽研究所長

夜10:28~

ザ・ストーリー
- 一冊の本に
込められた
思い
服部みぎわ

山下正雄
RCJメディア
ミニストリー代表

夜10:28~

**聖書を
開こう**

飯 靖子
日基教団 霊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:28~

**イエスから
始めよう**

夜10:28~

**聖書を
開こう**

夜10:20~

「獄中書簡」(再)

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(木)～25日(金) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

2021年 2月27日(土)～28日(日)

- ・一日黙想会：(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《 カルメル会聖人に学ぶ黙想会 》

11月18日(水) 12月16日(水)

2021年 1月20日(水) 2月17日(水) 3月17日(水)

- ・一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時)

2021年

1月23日(土)～24日(日) 今泉健神父

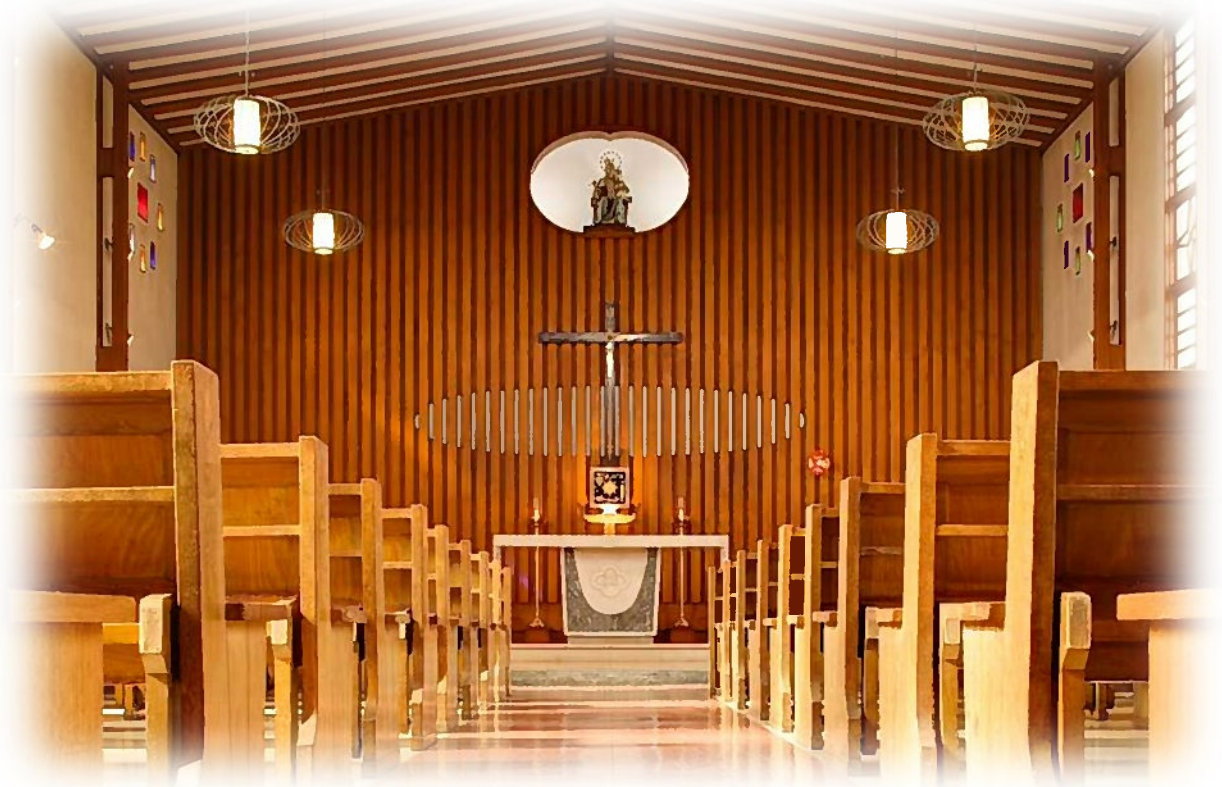
3月13日(土)～14日(日) 今泉健神父

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

12月27日(日)～1月 5日(火)

- ・青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

2021年 3月26日(金)～28日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2021年度)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

1/30～31 2/13～14 6/5～6 7/17～18
9/18～19 10/30～31

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

1/9 2/6 3/6 6/26 7/24 9/4
10/2 11/6 12/18

【水曜黙想会】 (第3水曜日) (午前10時～午後4時)

2/17 3/17 4/21 5/19 6/16 7/21
9/15 10/20 11/17 12/15

(6/20 7/21 11/17 カルメル宣教修道女会 Sr. ロサ)
他すべて 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

5/1 (土) 午後5時～5/8 (土) 午前10時

参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/2 (土)～3 (日)

十字架の聖ヨハネ 12/11 (土)～12 (日)

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

1/12 (火)～21 (木) 中川博道神父

7/29 (木)～8/7 (土) 中川博道神父

8月 (日時未定) 大瀬高司神父

(決まり次第HPでお知らせします)

9/20 (月)～29 (水) 中川博道神父

11/8 (月)～17 (水) 中川博道神父

12/27 (月)～1/5 (水) 中川博道神父

【待降節黙想会】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

12/4 (土)～5 (日)

【祭日のミサに参加するために】

*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時~午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

京都司教区オンライン聖書講座

ZOOM

コロナの時代に聖書を生きる

—混沌への光を探して— (全5回)

講師：中川博道 神父様

(カルメル修道会)



日時：2020年10月8日(木) 10:30～11:50

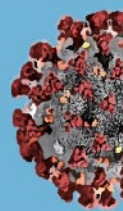
11月12日(木) 10:30～11:50

12月10日(木) 10:30～11:50

2021年1月7日(木) 10:30～11:50

2月4日(木) 10:30～11:50

聖書を生きる



申込方法：メールにて seisho@kyoto.catholic.jp までお名前、ご住所、所属教会（信徒の方）をお書きの上、お申込みください。お申し込み後、会費をお振込みください。お振込の確認が出来次第、こちらから受付完了と ZOOM 招待の URL を付けたメールをお送りいたしますので、当日はご自宅などよりご視聴ください。受講の際の詳細につきましては、メールに記載いたします。

会 費：全5回分 1,000円 郵便振替にて9月25日までに下記宛
口座番号 00910-9-148401 カトリック京都司教区聖書委員会

お問い合わせ：カトリック京都司教区聖書委員会

TEL / 075-366-6609 (水、木の10:00～16:00)

FAX / 075-366-6679

e-mail / seisho@kyoto.catholic.jp

主 催：カトリック京都司教区聖書委員会

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2020年 — 祈りの集いのご案内

「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月 9日 「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成
2月13日 「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく
3月12日 「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う
4月 9日 「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う
5月14日 「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる
6月11日 「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる
7月 9日 「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会
- * * *
- 9月10日 「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史
10月 8日 「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術
11月12日 「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴
12月10日 「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

前晚17:00まで可

www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

| コース | 日時 | 指導 | 開催場所 | 申込み |
|---------------|--------------------------------|--------|----------------------------------|--|
| フォローアップ | 2021年 1/17(日) 9:30-17:00 | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F (四ツ谷) | 来間(くるま)裕美子※ TEL 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp |
| フォローアップ 新I | 1/24(日) 9:30-17:00 | サダナチーム | 同上 *16時～ミサがあります *椅子での黙想です | 同上 |
| サダナII | 2/10(水)17:30 2/14(日)16:00 | Fr植栗 | 汚れなきマリア修道 会・町田修道院(町 田市本町田) | 同上 |
| サダナI | 2/20(土)17:30 2/23(火)16:00 | Fr植栗 | 小金井聖霊修道院 (町田市桜町) | 同上 |

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナI : サダナ1において、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることと心の静まりを入り口として、深みに進みます。

◆サダナII : サダナ1の土台を生かしながら、さらに奥へ、高みへと向かいます。

◆フォローアップ…サダナIを終えた方。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

年内中止のお知らせ

1. 2021年度予定

1月21日（木） 3月25日（木）

但し、コロナの感染状況によっては、誠に申し訳ありませんが、急遽中止ということもあり得ます。

2. 参加人数の制限：予約制になります。先着16名のみ。

3. 連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2020年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 黙 想

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月10日(日)～ 5月18日(月)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月 4日(日)～ 10月12日(月)
- ④ 12月27日(日)～2021年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月27日(金)～ 3月29日(日)
- ④ 6月12日(金)～ 6月14日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月13日(金)～11月15日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食
九里 彰 師（カルメル会）

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 氏名(カガカ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

8日間の黙想は 先着順 11名、週末3日間の黙想は先着2名 です。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。

D. 独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）

9月12日（土）～13日（日）

11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院 Sr. 桂川美代（Tel. 077-579-2884）

- E. その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

『靈性センターニュース』

2021 年度の郵送お申込みのご案内

靈性センターニュース 愛読者の皆様

ご愛読をありがとうございます。

2021 年度（1 月～12 月、8 月休刊のため 11 回）の『靈性センターニュース』郵送をご希望される方は、以下の振替口座に 2,750 円程度の献金（郵送料 250 円の献金とすれば、11 回で 2,750 円程度の献金）をお振込みいただければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「靈性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなくご記入ください。

一度に 10 冊までお送りできますので、複数ご希望の方もご遠慮なくご記入下さい。（郵送料のみです。1～10 冊まで同金額になります）

お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスか e-mail で、お願いいたします。

また、既にお申込み頂いている方、ご献金頂いた方へ重複したお知らせとなります事、お詫び致します。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

『カルメル靈性センターニュース』編集長
中川博道 o. c. d.

あとかき . . . つぶやき . . .

待降節、新しい典礼暦年が始まりました。

待降節第1主日は毎年、「目覚めていなさい！」という呼びかけから始まります。

闇の中を歩む民は、大いなる光を見
死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた（イザヤ9:1）

この出来事を、私たちがパンデミックの闇と死の陰の地に住みながら、見いだすことができますように、目覚めて歩みたいと思います。

主イエスは、夜露のように、音もなく静かに、お生まれになります。旅先の心細さの中で、糞尿にまみれた家畜たちの間に、そして私たち一人一人の心にお生まれになります。

ある時、幼稚園の先生が、「どうして神様は赤ちゃんになって生れてきたと思いますか」と問いかけました。そして、子供たちに静かに言いました。「みんなにギュッと抱きしめられたかったからだよ。」

クリスマス《CHRIST-MAS:キリストのミサ》。食べられてでも一緒にいたいと望まれる主イエスとあらたに出会って、新しい典礼の一年を始めていくことができますように。

皆様の上に主の降誕の恵みと平和を心よりお祈りしております。

Fr. 中川博道 o.c.d.

P.S：2021年度は、福者フラ・アンジェリコの絵で表紙をお伝えし、
イエスの御顔を観想した修道士のまなざしをたどりたいと思います。

